

3.13から、始動した者達が、 直視した「現実」

今後に繋げる震災の記憶

2011.3.11 発生 東日本大震災支援活動内容

Support of the 2011.3.11 Tohoku earthquake and tsunami

加藤 秀視
SHUSHI KATO

Japan元気塾 駐れ！ 東北復興サポートセンター 「Hamanasu」始動

▶3月11日。今でも決して忘れません。
震災のあったあの日から……

震災から2日後の昼間。俺は居ても立ってもいられず、雪の降る中、福島、仙台空港、石巻、岩手に無心で飛び込みました……。そして、現在も皆様方のお力添えのおかげ様で、支援物資数十トン、炊き出し数万食、その他瓦礫の撤去等、今に至るまで継続的に被災地支援をさせて頂いております。震災から早3ヶ月が過ぎ、被災地では支援の動きも落ち着きを見せていますが、残る問題は山積みです。復興には**多くの人と力と時間とお金が必要！**です。現在、被災地の状態が「生存」から「復興」にテーマがシフトしてきています。衣食住の問題

から、徐々に長期的に取り組んでいく問題に変化してきています。その中でも特に今、雇用の問題や仮設住宅の問題が顕著に表れてきており、被災地の方々は厳しい生活を強いられています。

▶被災地の現状

今、被災地では**雇用**が大きな問題になっています。津波によって働く場所を失った方々は、国が行っている陸と海の瓦礫撤去を行ない、収入を得る方法が与えられています。しかし、瓦礫撤去は重労働で、**女性や高齢者にはとても厳しい**のが実情です。さらに、瓦礫撤去で働けるのは一家に一人から二人。その上、海で働いてきた漁師の方々でさえも3日行けば疲れ果てて、次の日は行けないという声をよく聞きます。また、海の瓦礫撤去は海に沈んでいる重いもの。国が全力で資金と方法を投入して動かなければ、地元の人たちの力だけではどうにかなる問題ではありません。幾度やろうとも、気休め程度にしか片付かないのです。その他の瓦礫撤去ができない人達は、仙台や福島、また**県外まで出稼ぎ**に行き、家族と離れて働くことで収入を得ています。しかし、県外で仕事を見つけるのも決して簡単ではありませんし、出稼ぎには、車で行けばガソリン代、宿舎代、外食代とかかり、結局手元に残るのは僅かな給料のみとなってしまいます。週に一度家に帰ってきては、疲れて寝てしまう。最近は笑うことさえも忘れてしまっていると言います。また、最近は妊娠した母親たちからの相談も増えています。一般的に東北の家庭は、子宝に恵まれている家庭が多く、兄弟の多い子ども達をよく見かけます。しかし、せっかく授かった子宝も、収入がなくなっ





てしまった今、**産むことができない……**。また、こんな災害時に妊娠したなんて、役所にも申請しづらい、誰にも言えない。でも、産まない以外の方法は絶対に考えたくない！と夜も寝られず、深刻に悩んでいます。地元で働くご主人も震災の影響で給料が10万しか貰えなくなってしまったと聞きました。

「お金があれば！お金さえあれば！産めるのに……」

ある母親が泣きじゃくってこの言葉を訴えてきた時、自分の無力さに、胸がとても苦しかった。

さらに、**仮設住宅の問題**もあります。ただ仮設の住まいだけを明け渡されても、家電品もなければ

日用品も食料品もない、あるのは避難所で分けてもらった明日までの食料品だけ。ある老夫婦は仮設住宅に優先的に住めたのはいいものの、話す相手もいなければ、やることもない。ただ1日ぼーっと過ごすだけ……と孤独感と不安感を感じ、人のいる避難所に帰ってこられたそうです。下手に仮設住宅に住んでしまって、物資の支援が受けられなくなったり、話す相手もない不安感や孤独感を感じるなら、いっそプライベートが無くて人のいる避難所の方がいいと言う方もたくさんいます。仮設住宅に住んでも働き口がない方やお金のない方は、**長期的に必要な日用品や家電品の物資さえも買えない**のが現実です。

「自分たちの力を故郷の復興に使いたい」

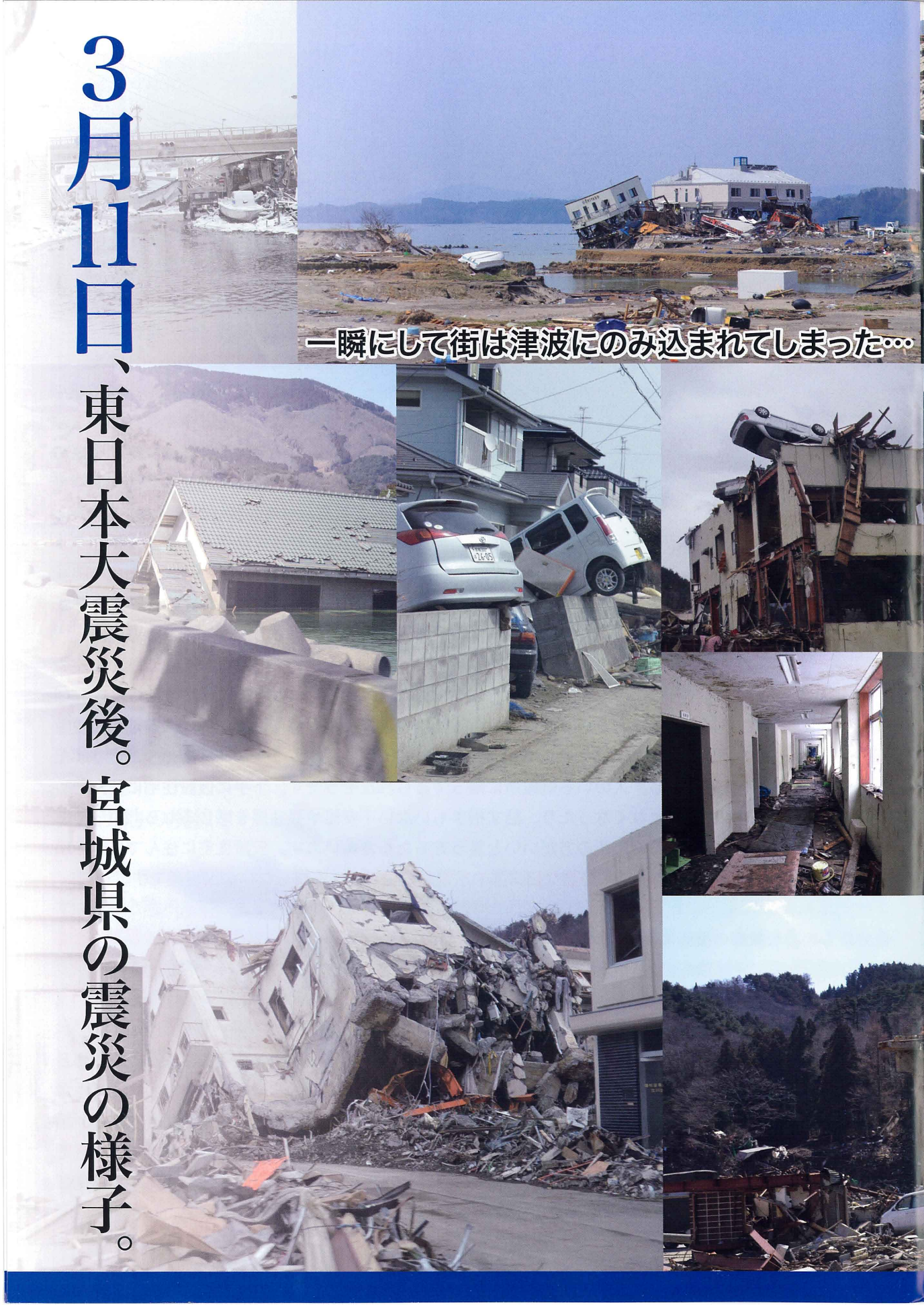
「こんな時だからこそ家族の側に居てやりたい」

「もう一度地元で働きたい」

被災地の方々は口をそろえてこう言われます。2年後、3年後であればそれも次第に可能になっていくことでしょうし、国の支援も本格的に動いてくるでしょう。しかし、**今現在！今日、明日、来週、来月！**を本当に困っておられる方々、苦しんでおられる方々が山ほどたくさんいるのです。こんな状態ですから、精神的な疾患を訴える方々が多くなってきたのも現状です。そこで俺は、中途半端はやめて！**本気の本気で被災地の方々と向き合**うことにしました。そして考えの末、**「被災地復興の為の雇用」**を作りだす為、俺は東北復興サポートセンターを宮城県南三陸町から建てることを決心しました。

3月11日、東日本大震災後。宮城県の震災の様子。

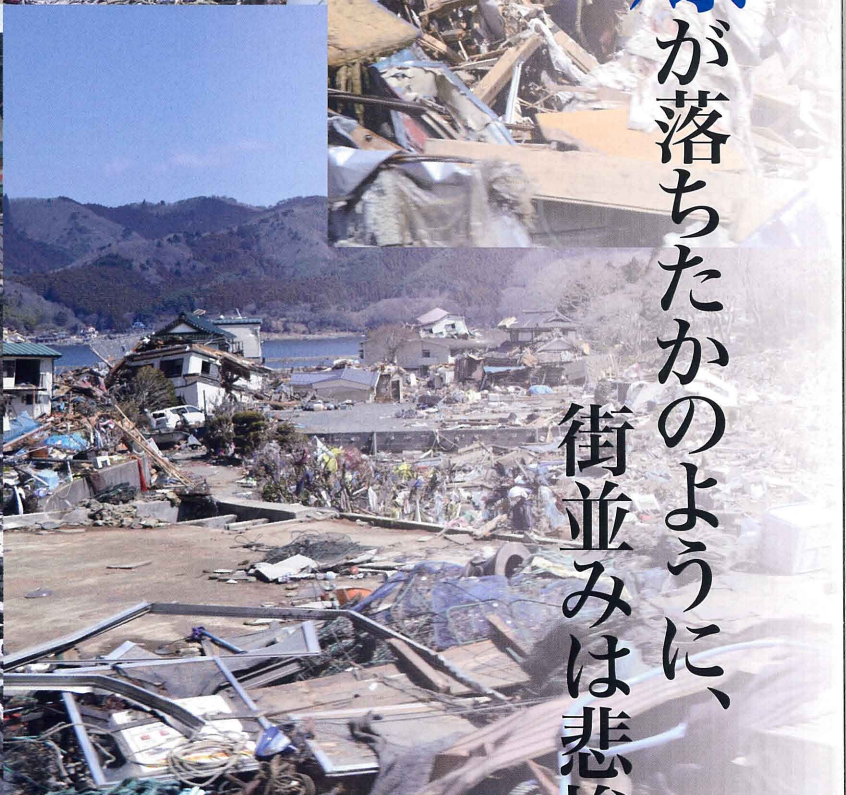
一瞬にして街は津波にのみ込まれてしまった...



まるで、**原爆**

が落ちたかのように、

街並みは悲惨な状態だった。



東北復興サポートセンターの目的と役割

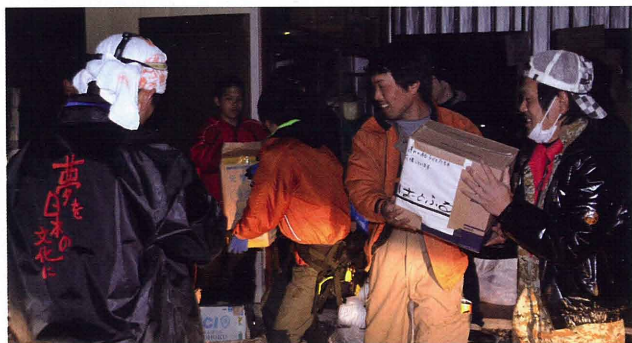
冒頭で話したように今、被災地では雇用が大変な問題となっています。また、被災地の方々の力や想いが復興に生かし切れていません。そこで、東北復興サポートセンターでは可能な限り、被災された方々が経済的な自立や国からの具体的なサポート、または収入の見通しを実現するまでの間、被災地の方々を直接雇用し、復興の為に志事を行なっていきます。復興の為に志事は決して瓦礫撤去ではありません。被災の当事者だからこそ本当に分かること、できることがたくさんあるはず。被災地のニーズと支援者とのマッチング、地場産業の再生、子ども達の精神的なケアやご老人とのコミュニケーション……。復興の為に一体！今何が本当に必要なのか？地元人の目線で、真剣に地元の復興を考え、地元の皆で分かち合う環境をサポートセンターで作り出し、被災した方々同志が自らの力を合わせ！決めたことを実行していくことに給料を払うのです。

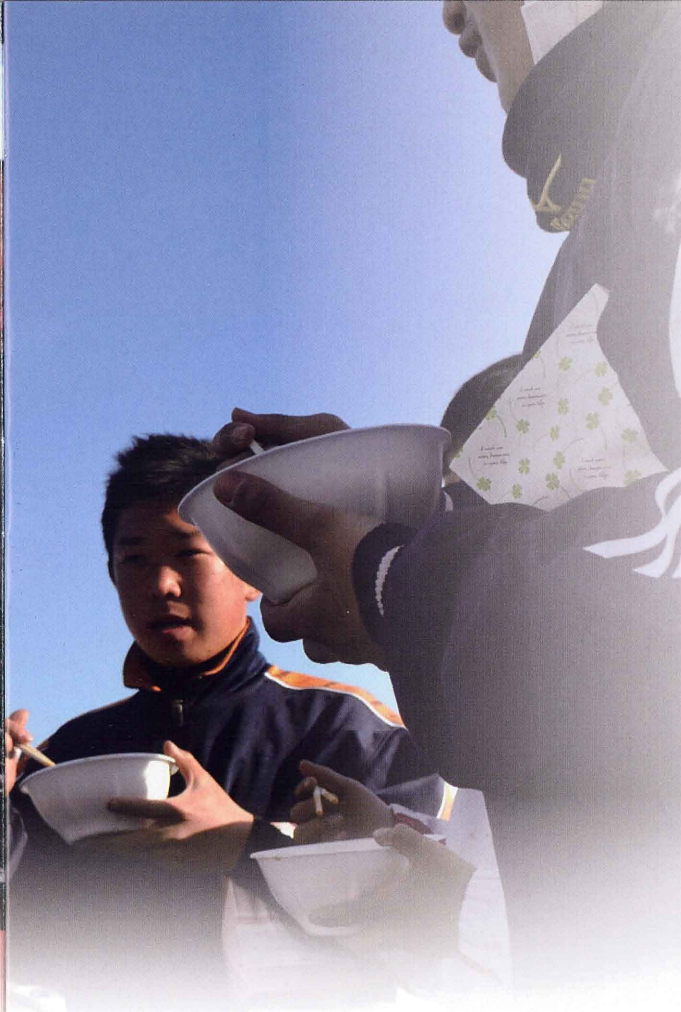


～東北復興サポートセンター4つの目的～

1.被災地の方を直接現地で採用し復興に直結した志事を行なう

現在、被災地の復興は国や外部からの支援に頼りっきりで、地元を愛する方々の力とアイデアが活かされていません。そこでいち早く復興を成し遂げる為に、漁業や農業など地場産業の再開、新規事業の立ち上げなどを出来る限り実行し、経済的に自立した状態を目指します。それは例えば、Web会社と提携を組み、海産物のネット販売かもしれません。また、出版社と組み、震災に関する書籍を世界中で出版することかもしれません。また、香港、上海、シンガポールなど、アジアの資産家に支援を仰ぐことかもしれません。こういった活動で生まれた利益によって、被災地の方々の生活の安定に貢献します。徐々に志事を創り出し、5名ずつ雇用を伸ばして目標は50名～100名の被災した方々の雇用を生み出したいと考えています。現時点では25名の方々の雇用が決定しています。





2.被災地のニーズと支援者とのマッチングを図る

現在、被災地からの情報発信の不足と不正確さにより、被災地で本当に必要としているものが分からず、支援したくてもできなかったり、支援に行っただけ結局 **ミスマッチに終わったり**、ということが多々あります。被災地の方々は支援してほしいことや困っていることがあっても、

「こんなの贅沢じゃないだろうか？」、

「私の家は他の家と比べたらまだマシな方だから」

という様々な葛藤や想いもあり、中々悩みを支援者に打ち明けにくいものです。そこで東北復興サ

ポートセンターで働くスタッフ（被災の当事者）が橋渡し役となって被災地の正確なニーズを集め、支援者の募集をメルマガ、Twitter、Facebook等々のSNSで行ない、ストレスのないマッチングを図ります。

3.子ども達の憩いの場を提供し、子ども達の心のケアを行なう

震災によって親や兄弟、友達、祖父、祖母を亡くしてしまった子どもたちは現地にたくさんいます。そういった子ども達の心のケアを行なう為に、読み聞かせや映画鑑賞、季節のイベントなど、子どもたちがやりたいことをどんどん行ないます。遊び場所や、**子ども達が悩み相談をしやすいコミュニティ**（環境）を作ります。これによって、学校帰りに気軽に立ち寄れる場所、遊びに来られる場所、困った時は相談できる場所、また、かっちょいい！お兄さん、優しいお姉さんがいる場所、そういった笑顔や元気の溢れる環境を提供します。

4.復興支援センターの支部を拡大し、被災地全土の復興の見通しを作る

復興支援センターは本部を栃木県に置き、第一支部を宮城県南三陸町、第二支部を福島市に置きます。まずは第一支部で被災地復興への道筋、モデルケース、実績を作り、次いで福島、岩手へと支部を拡大していきます。これにより被災地全体の復興に貢献します。

避難所のボードには、安否状態の連絡が書かれていた。
行方が分からなく家族、友達を探していた。

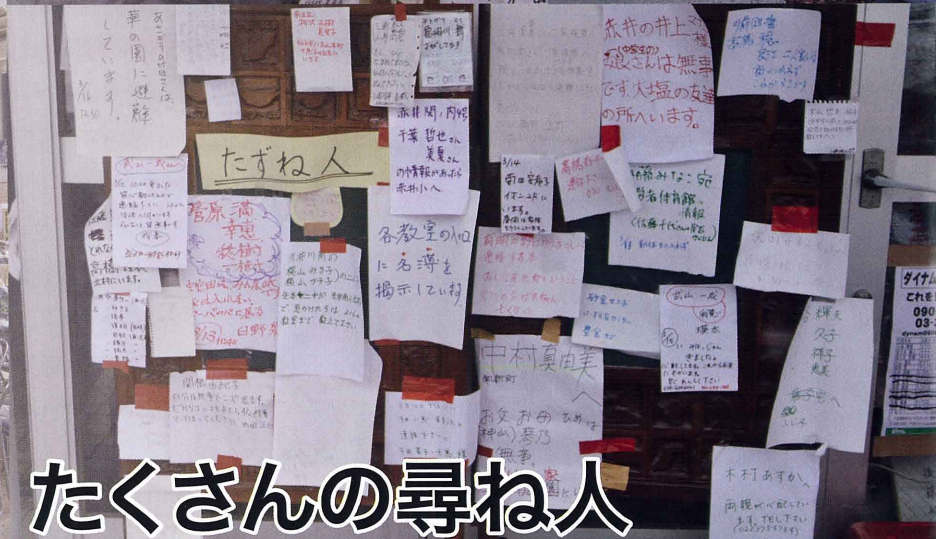
避難している方々



隙間もなく敷き詰められた布団



あっという間に空っぽに



たくさんの尋ね人

沢山の方々から届けられた物資……

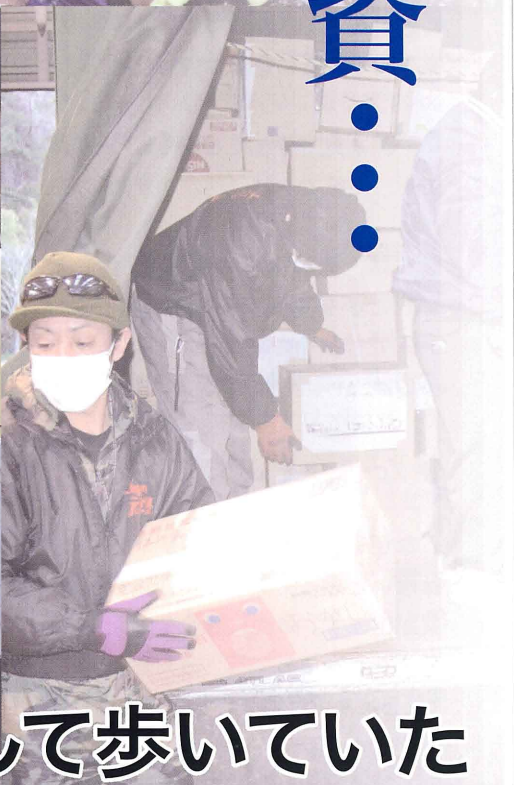


たくさん集められた支援物資

この日は、雪が降っていた



水の配給に長蛇の列



子ども達が食べ物を探して歩いていた

▶東北復興への想い

東北復興サポートセンターを実行するにあたって、最大のネックとなるのが**資金**です。このプロジェクトは利益が目的ではないため、どうしても資金面で課題が残ってしまいます。雇用を生み出す以上、国からのサポートや新しいビジネスで資金を生み出さない限り、**継続的に給料を支払うことはできなくなる**上に、大きな施設でなくとも建設するには大きなお金がかかりました。と言うのも、もうすでに土地を購入し、現在建物を着工中で、7月下旬から東北復興サポートセンターとして運営がスタートします。なので、皆様からのご支援も頂くことができれば！めちゃくちゃ嬉しいですし、とても助かります。**現段階ではすでに25名の方々の雇用が決定**し、雇用が決まった皆さんはとても喜んで頂いています。その中の数人の女性は、「**これでお腹の中にいる赤ちゃんが産めます！**有り難うございます！」と泣きながら喜んで下さりました。資金がもっと集まれば、一人でも多くの被災された方々の雇用が生み出せ、命を繋ぐことができます。

▶しかし、皆様をお願いする前に！

俺、加藤秀視自身が被災地のために出来ることを！
本気で！全力でしなければ、皆様に力を貸して下さいなど本気で言えないと思いました。そこで今回、俺は**自分の貯金も愛車も資産になるものはすべてお金に変え、投入**することにしました。なぜなら、これからの日本を背負うべく若者の1人の加藤秀視が、本気の本気で！この東北復興に体当たりで取り組まなければ、被災地の問題や日本の未来を担う若者の意識は何も変わらないままだし、解決しないままになってしまうと思ったからです。

いや、本気でやっても何も変わらないかもしれない。
でも、本気でやれば何かが変わるかもしれない。

ならば、俺は後者の本気の1歩を本気で踏み出したいと思いました。俺が小さいころからずっとコツコツと貯めてきた夢を実現するための小さな私財が……どれほどの助けになるかは分かりませんが、このプロジェクトで**一人でも多くの被災した方々を救いたい**。俺が被災地に通っていて、とにかく感じるのは！被災地の方々が困っているのは、1年後や2年後ではなく……**“今”**なんだ！

▶なぜ、そこまでするのか？

なぜそこまでやれるのか？多くの方が疑問に持たれることだと思います。俺は今回の復興は1人の力で行なうものではないと思っています。口癖のように伝えてますが、**1人の10000歩より、1万人、1億人の1歩**の方が、確実に成果が出ます。単純に募金で考えたとしても、日本の皆様！1人1人が被災地のことを想い、1億人の方々が、1人1円の募金を我々にして下さったら、**1日で1億円**が集まります。たくさんの雇用ができます。たくさんの命が繋がります。1円を出すのが難しい年齢でなければ、1円の募金は誰にも負担にはならないと思いますし、1日100円の募金を1億





人が実行したらとんでもない数の人達が救えます。それに、確実に日本全体の意識が変わるでしょう。**皆様！一人一人の力の集合体が！被災地を救い、東北復興を確実に成し遂げる**のだと思います。そして俺は、誰しもが心の片隅で、

「被災地に何か支援できたらいいな」

「被災地のみんなは大丈夫かな？」

そんな想いを持っているのでは、と思っています。それは、震災直後に街角で行なわれた募金活動や、震災から4ヶ月経つにも関わらず、依然大きくメディアで報道され続けている現状を見ての通りです。だからこそ！こうして誰かが本気で1歩を踏み出し、志ある者がしっかりと地に足をつけ、意識をひとつにし、力を合わせて被災地支援の仕組みやサポート態勢を作ることができれば、**1千万人、1億人が1歩を踏み出すに違いない**、と本気で信じているからです。そして、それによって多くの方々が救われ、志ある者達をきっかけに被災地復興の礎が積み上げられれば、これほど素敵な大和の精神と繋がりは無いと思うからです。その為に必要なことは何でも行なう**本気の覚悟**です。

東北復興サポートセンター立ち上げ後はしばらく被災地に**住み込み、自らリーダーシップを発揮する予定**です。なぜなら、本気で復興を成し遂げようと思うなら、今までのようにちょくちょくと現地に行くのではなく、現地に住んで被災した方々と同じ目線に立たなければ見えて

こないことがたくさんあるはずだからです。また、支援金を集めやすい仕組み作りや、皆様からお預かりした物資や支援金の活動報告など、必要なことは全て被災地から徹底して発信！し行なっていきます。今回の支援金の募集も俺が塾頭を勤める**一般社団法人 Japan元気塾**を通して行い、金銭の使用に一切不正がないよう、当会の担当税理士と当会の監事である弁護士が管理していきます。もちろん皆様のご存知の通り、一般社団法人は営利団体ではありません。今後の情報共有に関しては、東北復興サポートセンターの Twitter、Facebook、メルマガ等々で被災地から！随時ライブで皆様に正確な情報を共有させて頂きたいと思います。

▶最後に……。

ここまで偉そうなことを書きましたが、正直、今は不安な気持ちと責任感のプレッシャーでいっぱいです。それは、長期的に俺の力だけではセンターの拡大や、仕事に困っている多くの方々の雇用を賄うのは難しいと思うからです。そこでこれからも！**是非、長期的に皆様のお力を貸して頂きたい**のです。それは、物資支援、支援金、スポンサーのご紹介、スポンサーとしての提携、ご支援、情報拡散、アドバイス、アイデア提供、どのような形で構いません。受けた恩は絶対に忘れませんし、全力でお返しします！支援を頂けるなら出来ることは何でもします！いや、させてください！**皆様方の1歩が被災地の方々を救い、命を繋げます。そして、皆様の1歩が！日本の意識を変えます。**

俺のような無鉄砲な輩に…少しでも共感して、同感して頂けましたら、ご支援、ご協力を頂けますと幸いです。共に東北復興を確実に成し遂げましょう！長文、最後までお読み頂き、誠にありがとうございました。皆様一人一人と繋がりが、志が引き合い、力を合わせられる日を心より楽しみにしております。

愛と感謝を込めて…加藤秀視

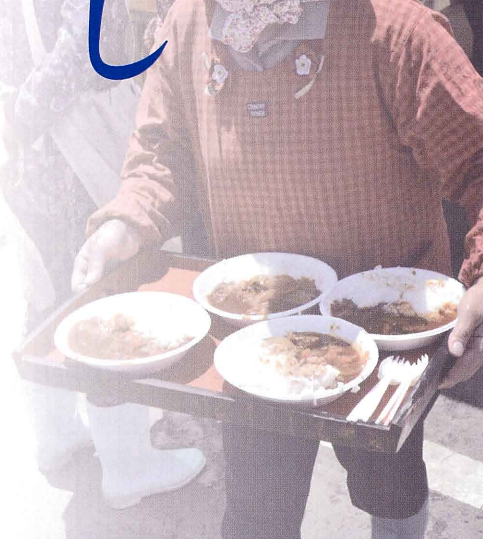
被災者の、命と心をつなぐ炊き出し



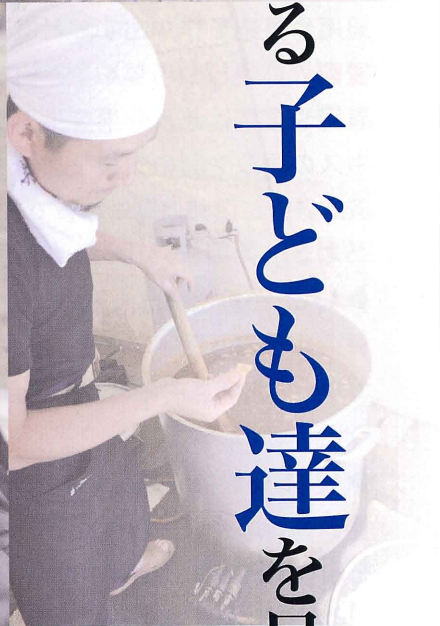
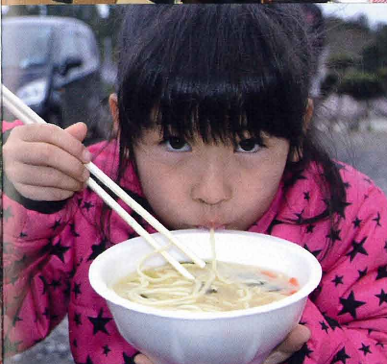
炊き出しの準備



麻木さんから
お菓子の差し入れ

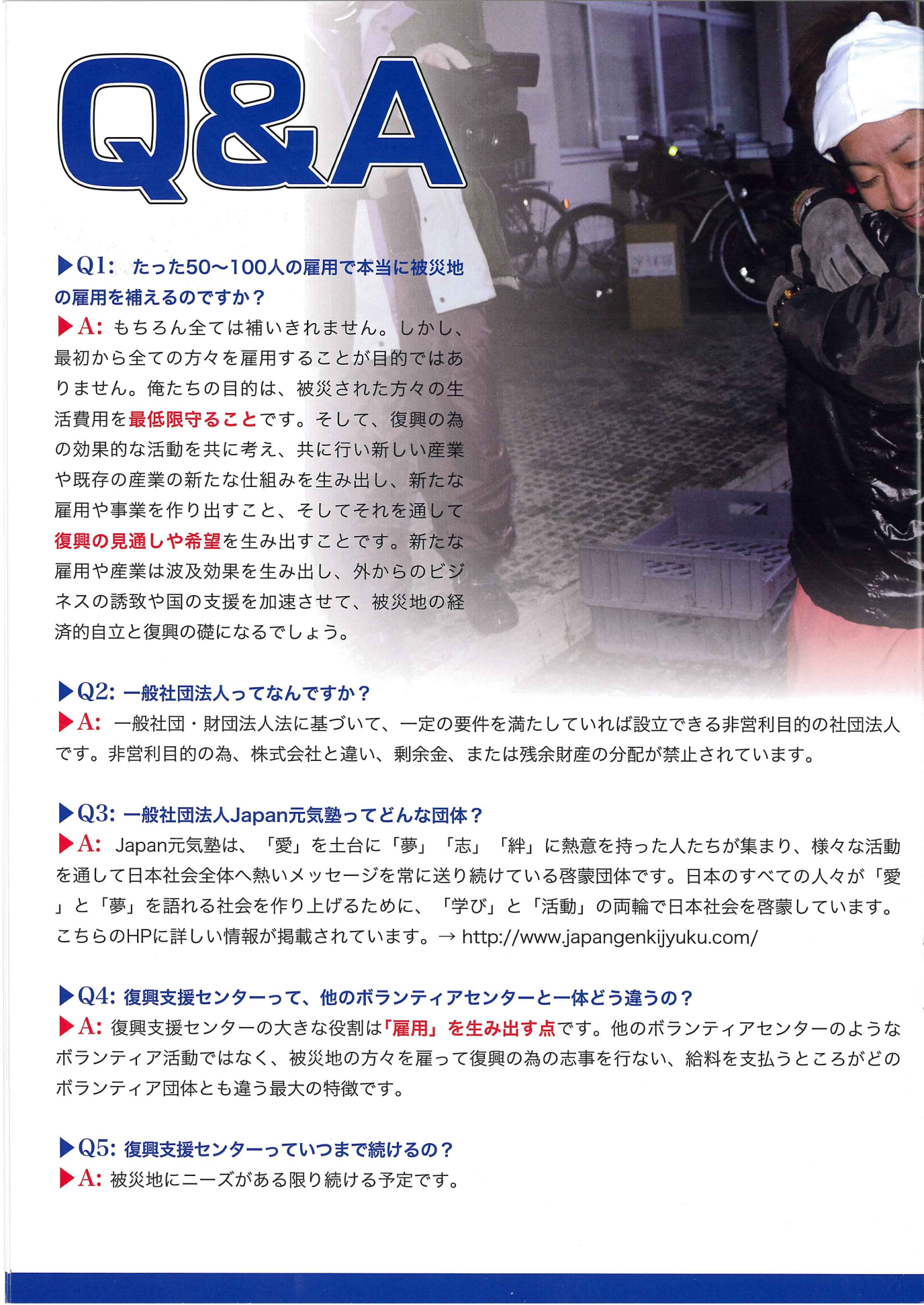


子ども達もお手伝い



美味しそうに食べている子ども達を見ると、力が湧く

Q&A



▶ **Q1:** たった50~100人の雇用で本当に被災地の雇用を補えるのですか？

▶ **A:** もちろん全ては補いきれません。しかし、最初から全ての方々を雇用することが目的ではありません。俺たちの目的は、被災された方々の生活費用を**最低限守ること**です。そして、復興の為の効果的な活動を共に考え、共に行い新しい産業や既存の産業の新たな仕組みを生み出し、新たな雇用や事業を作り出すこと、そしてそれを通して**復興の見通しや希望**を生み出すことです。新たな雇用や産業は波及効果を生み出し、外からのビジネスの誘致や国の支援を加速させて、被災地の経済的自立と復興の礎になるでしょう。

▶ **Q2:** 一般社団法人ってなんですか？

▶ **A:** 一般社団・財団法人法に基づいて、一定の要件を満たしていれば設立できる非営利目的の社団法人です。非営利目的の為、株式会社と違い、剰余金、または残余財産の分配が禁止されています。

▶ **Q3:** 一般社団法人Japan元気塾ってどんな団体？

▶ **A:** Japan元気塾は、「愛」を土台に「夢」「志」「絆」に熱意を持った人たちが集まり、様々な活動を通して日本社会全体へ熱いメッセージを常に送り続けている啓蒙団体です。日本のすべての人々が「愛」と「夢」を語れる社会を作り上げるために、「学び」と「活動」の両輪で日本社会を啓蒙しています。こちらのHPに詳しい情報が掲載されています。→ <http://www.japangenkijyuku.com/>

▶ **Q4:** 復興支援センターって、他のボランティアセンターと一体どう違うの？

▶ **A:** 復興支援センターの大きな役割は**「雇用」を生み出す点**です。他のボランティアセンターのようなボランティア活動ではなく、被災地の方々を雇って復興の為の志事を行ない、給料を支払うところがどのボランティア団体とも違う最大の特徴です。

▶ **Q5:** 復興支援センターっていつまで続けるの？

▶ **A:** 被災地にニーズがある限り続ける予定です。



▶ Q6: ぜひ支援したいのですが、正直あまり大きな支援はできそうにありません……。お金の支援っていくらから受け付けていますか？

▶ A: 最小単位は100円から受け付けております。私たちは1人の100歩より100人の1歩を大切にしたいと考えております。ですので、小さな支援も大歓迎です。

▶ Q7: 復興支援センターが掲げる「復興」とはどういう状態ですか？

▶ A: 私たちは街や建築物、雇用の復興だけでなく、日本の強みである**助け合いの精神**や、和を尊ぶ心を日本人が思い出すところまでを「復興」と呼んでいます。このような精神性まで含む復興の旗を掲げることで、**日本全体の精神性を高めること**を目指しています。

▶ Q8: 「直接雇用を生み出す」ということはどういうことですか？被災地の方を雇う会社みたいなものなのでしょうか？

▶ A: 国や公共機関を挟まず、私たちが直接被災地の方々を雇用し、給料をお支払い致します。会社と違うところは、「利益を生む仕事」を行なうのではなく、**「復興の為の志事」**を行なう点です。ですので、復興支援センターの活動は必ずしも利益を生むとは限りません。

▶ Q9: 大変失礼ですが、どうして自分の身を削ってまで利益にならないことをするのですか？

▶ A: 私も起業家のはしくれとして、リターンがない仕事はしたくないのが本音です。しかし今回の活動は、売上は確かにあがらないかもしれませんが、被災した多くの人たちの希望や、見通しや、笑顔や、元気と言った素晴らしい価値を創り出すことができます。**単純な損得勘定だけでなく、今は被災された方々の為にできることをやるのが大切だと考えています。**今、この文章を読んでも、なぜこんなことをするのか分からない、という方もおられるかもしれません。しかし、この生き方が「加藤秀視」という男の生き方なんです。

子ども達の笑顔：母親が亡くなってしまった子もいる。
初めは、誰にもなつかず話をしてくれなかった。
しかし、みなさんの温かい関わりで、ようやく笑顔になった。
この子ども達の未来に向け、一日も早い復興に努めます。



沢山の方々から、温かいメッセージ、応援を頂いています。



東北復興サポートセンター「Hamanasu」への支援が、
日本の『志援』となる様、皆様のお力を… Japan 元気塾



□支援情報

現在、皆様からの支援金を募集しております。これから復興支援センターを運営していくにあたって、給料を支払ったり活動を行なったりと多大な資金が必要となってきます。そこでぜひ皆様のお力をお貸し頂きたいのです。皆様のご支援が直接被災した方々を救います。「支援と言っても、そんな大きな支援ができない」との声もうかがうのですが、小さな支援の積み重ねこそ大きな力を生み出します。どんな形であれご支援は大歓迎です。

また、ささやかですが支援金のご支援を頂いた方には、被災地の様子を手作り新聞にしてお送りさせて頂きたいと思います。手作り新聞をご希望の方は下記連絡先までご連絡下さいませ。何卒、お力添えをよろしくお願い致します。

◎支援金振込先

栃木銀行 大沢支店 (普通) 1009838 一般社団法人 Japan元気塾

◎手作り新聞ご希望の方

件名に【支援金振込】と記入し、

1、お名前

2、住所

3、電話番号

4、支援金の額

を明記の上、Shushi_ranger@yahoo.co.jpまで

ご連絡下さい。センターでの活動をまとめ、後日お送りさせて頂きます。

□法人の皆様へ

サポートセンターでは法人の皆様のご協賛も募集しております。ボランティア団体や企業の皆様でご支援、ご協力頂ける方がおられましたら、Shushi_ranger@yahoo.co.jpまでご連絡頂けましたら幸いです。東北、被災地、サポートセンターならではの協賛内容をご相談させて頂きます。

◎今までの活動履歴 ~facebook~

<http://www.facebook.com/katou.shushi.shinsaishien>

◎加藤秀視とは? ~ホームページ~

<http://www.souei.info/>

◎加藤秀視公式ブログ ~ブログ~

<http://ameblo.jp/kato-shushi/>



青少年更生に命を燃やす社会起業家 加藤秀視が被災地の復興支援活動を行っています。

facebook 東日本大震災復興支援プロジェクト

<http://www.facebook.com/katou-shushi.shinsaishien>